

## 新しい軽井沢物語への序章

現代社会は、気候変動による地球規模の環境破壊や生物多様性の崩壊という未経験の危機に解決の見通しを持たないまま次々と難問に襲われています。金融資本に踊らされ、市場優先主義に先導される結果、経済・文化に関する地域の自立が危うくなり、遺伝子科学、生命科学などの進展の答えとして、医療や農業生産の変化は、はからずも生命倫理に関して深刻な疑念をもたらしています。

さらに、情報科学、デジタル技術の急激な発展によって、現実と仮想との間に錯乱が生まれ、物質工学の進歩は本物と偽物の境界をかき乱し、そこから人間の価値判断や規範意識が根本的にぐらつき始めています。

加えて先進諸国、とりわけ日本においては、格差社会の歪みや生命観、家族観の変化の結果として、極端な人口減少社会の到来が現実味を増し、その一方で高齢社会がもたらす医療・福祉・介護などの分野で難しい課題が立ちはだかっています。

現代から近未来にかけての文明的危機と言わざるを得ません。

このような不安のなかで、一見矛盾するようですが、宇宙と地球、自然と人間、さらには国家と地域などの相関関係に新しい道を切り開き、行き詰まろうとする人類の次なる姿への展開を促すのも、また進化する文明の力なのです。

無数の星が絶えず誕生し、衰え、散り砕けてゆく広大な宇宙の営みの中であって、人間の存在は砂粒のようにちっぽけで、儂いものではありませんが、瑞々しく、愛しい生命であり、前途に行き詰まった今の時代こそ、むしろきらきらと濡れ光っているように思います。

このきらめく生命力、コミュニティ自治力、地母性が合体した風土の底力で新しい地域社会を再生させる原動力が生まれ、バブル的経済、カジノゲームの手荒い経営と袂を分かった個人的な時代が開拓できるのです。そこから本物の地域ビジネスが芽生え、郷土の食材が評価され、伝統技術を受け継いだ職人の手仕事が見直され、きめ細かい福祉・介護が実現する…。

いわば本物ならではの手触りと香り高い味わいに満ち、文化遺産や生活の知恵が秘めている人間性、大いなる曖昧が醸し出す複雑な香気など、他の追従を許さない未来の軽井沢物語の生成を期待する、それがここで考えるランドデザインです。